令和２年度大牟田市総合教育会議（第１回）　会議録

◆ 日　　時　令和２年10月21日（水）14時00分～14時55分
◆ 場　　所　大牟田市役所北別館４階　第２会議室
◆ 出 席 者
関市長、安田教育長、山本委員、嶋田委員、東委員、笹井委員
教育施策関係部署
（企画総務部）岡田部長、伊豫調整監
（市民協働部）中島部長、冨安調整監
（教育委員会事務局）　中村事務局長、総務課 平野課長、教育みらい創造室 松葉主査、
学校再編推進室 中野室長、学校教育課 平河課長、松浦主査、
指導室 小宮室長、学務課 黒田課長、内野主幹、木下給食担当課長
（事務局：企画総務部総合政策課）藤丸課長、中島主査、沖

◆ 議　事
[議題]
１．今後の教育環境の整備について
事務局より説明後、協議。

委員　　大牟田市の学校の情報環境について、国のＧＩＧＡスクール構想を活用して児童一人に一台タブレットが整備され、子どもたちの学習環境が一段と充実することを、大変うれしく思っている。新型コロナウイルス感染症対策など、市全体で様々な取組みが求められていた中、毎年必要となるランニングコストがあるにもかかわらず、一人一台導入の判断に対して心から感謝を申し上げたい。

みなと小学校では奈良教育大学とのリモート会議、宮原中学校では弁護士さんによるリモート授業が行われた。子どもたちにとって、オンラインで日本中そして世界とつながるのは、当たり前のような時代になってきている。大牟田市では他の市町村に先駆けて英語教育に力を入れてきている。この英語教育をはじめ、ＥＳＤやＳＤＧｓ、そして今回の一人一台の端末が整備されることで、子どもたちの世界はどんどん広がっていく。市長には、今後も教育環境への支援をお願いしたい。

市長　　新型コロナウイルスによる休校が続いたことは、子どもたちにとって非常に重たいことであったと考えている。私立学校では、タブレット端末の配備が進んでいる中、通信環境やタブレット端末の整備を進めないことには、子どもたちの学習の保障ができないのではないかという強い思いがあった。教育委員会から端末整備の方針を出してもらい、進めるべきという判断をした。

ただし、タブレットがそろっただけでは教育が進むわけではないので、それを使ってどういう教育を行っていくか、モデル校を含めて、教育委員会に準備していただいている。

また、ゆくゆくは世界の子どもたちとつながることも視野に入れて、引き続き英語教育も教育委員会に進めていただきたいと思っており、私も支援していきたい。

教育長　ＧＩＧＡスクールについては、市内各小学校・中学校の教職員を対象にした研修を実施している。この研修を受けた先生が、各学校に戻って校内で研修をすることとしている。端末が配備されたらすぐに使えるように準備していきたい。

委員　コロナ感染症対策と経済活性化を両立させていかないといけないが、相反する部分もあり、非常に苦労されていると思う。教育現場は初めて経験する感染症に大変な労力を割かれている。そのような中、緊急雇用創出事業を活用して消毒作業の従事者を雇用していただき、学校からはとてもありがたいと伺っている。感染症対策は、手などが触れるところをいかに消毒できるかということが大切で、迅速に適切な感染対策を学校に対してしていただいたことに感謝している。今後も継続をお願いしたい。

また、感染発生後についても学校としては対応に苦慮するところがある。感染した児童生徒への対応はもちろんだが、いじめや誹謗(ひぼう)中傷につながるのではないかという心配があった。児童が感染した学校を訪問して、先生に話を伺ったが、学校、地域の連携で防ぐことができて安堵(あんど)した。ただ、感染が広がった時には、対応が十分にできるか不安に思っている。過度な不安や心配が差別、偏見、いじめにつながることもある。学校の現場の対策も大切だが、日頃からコロナに対する正しい理解をしていただいて、過度に恐れずに正しい予防をしてほしいということ、また、差別、偏見、誹謗(ひぼう)中傷、いじめはあってはならないというメッセージの継続的な発信を行政にお願いしたい。

市長　新型コロナウイルス感染症に残念ながら罹患されてしまった市民の方がいらっしゃる。その方に対する、誹謗(ひぼう)中傷や人権侵害は、決してあってはならない。また、医療従事者のみなさんに対しても、差別・偏見は決してあってはならないと思っている。市保健福祉部を中心に情報発信をしているので、ご指摘があったようにしっかり継続していきたい。

学校現場では、感染者発生時に、保護者の方も含めてみなさんで話し合って、いじめにあうことなどがないような丁寧な対応をしていただいているように感じる。この経験を基に、保護者と地域と一緒になって取り組むことが

大事であると思う。

教育長　　先日、教育委員に訪問していただいた学校では、保護者・ＰＴＡと地域の方が一緒になって、啓発の宣言をしていただいた。学校だけではなく、保護者や地域の方に正しく理解をいただくことが大事なことだと思う。子どもたちへの指導はきちんと各学校各学級で行っており、子供たちは比較的落ち着いていたと聞いている。他の学校でも、一つの事例として伝えていかなければいけないと感じている。

市長　　新型コロナウイルス対策の中で、雇用環境が厳しいという認識のもと、緊急雇用創出事業を実施している。初めは、先生方が自ら消毒作業をしていたので、先生方の負担を軽減でき、非常に助かっているという声も伺っている。消毒については、文科省の指導が少しずつ変わってきており、子どもたち自身ができること、先生たちができることが出てきているので、教育委員会の方針も聞きながら、できる限り教育現場がスムーズにいくような対応を行いたい。

委員　　７月６日に発生した豪雨災害の際には、先頭に立って陣頭指揮を執っていただいた市長をはじめ、市職員の皆さんに、市民として、一人の保護者として非常に感謝している。また、中でも甚大な被害があったみなと小学校をわずか１週間ほどで再開していただき、消毒、清掃作業のみならず、学習用品等の手配も市の職員の皆さんに迅速かつ的確に対応していただいた。このような尽力によって、子どもたちの笑顔を取り戻すことができた。本当にありがとうございました。

一方で、未だホテルに避難されている方や公営住宅などに一時的に入居され、不安な思いをされている人もいると聞いている。今後も災害への備えが大事だと痛感している。減災、防災教育の重要性を感じており、今回の災害を一つの教訓として、そのような教育に力を入れていただくようお願いする。

また、教育委員は各学校を訪問し、現場の先生方に直接お会いして、意見交換を行っている。テーマは災害やコロナウイルス感染症対策で、各学校での対策や課題を聞き取っている。その中で、特に豪雨災害時に、児童生徒の安全確保のため、あえて下校させずに学校に留め置いた先生方の対応をご説明いただいたが、非常に緊迫感があり、逼迫（ひっぱく）した非常時にもかかわらず、愛を持って全力で子供たちを守ってくださったことに、胸を打たれた。

そのような中で、備蓄品についての話が、複数の学校から出されている。備蓄品不足や食料などが避難所に届かなかったこともあり、学校にも一定の備蓄をする必要性を強く感じた。市民にとって学校は身近な避難所であるた

め、備蓄品の数量なども、ぜひ検討していただきたい。

市長　　みなと小学校の早期再開については、私の方こそお礼を言わなければならない。地域の方、教職員 OB の方、他の学校の先生方のご助力で、1 週間で子どもたちが通えるようにしていただいた。ご協力いただいた皆様には本当に感謝したいと思っている。

本格的な復旧はこれからだが、1 週間で通常の授業を取り戻せたのは、皆さんの力のおかげであるし、教育委員会をはじめ学校現場の皆さんの知恵のおかげであると思っている。

備蓄品については、しっかり見直しを行う。これまで避難所で受け入れた人数は、昨年で最大 200 人程度。7 月豪雨の際には 1,600 人、9 月の台風 10 号の際には、3,000 人以上の方が避難された。なんとか対応できたと思っているが、やはり十分ではなかった。今後は多くの皆さんに早期の避難をお願いしていくので、それに耐えられる備蓄、備蓄品の数だけでなく、備蓄場所や配送方法なども、検証委員会の意見も聞きながら見直しを行っていきたい。

教育長　　学校が再開することは、子どもたちはもちろん、地域が元気になるとの思いが結実して再開につながった。給食の再開についても、たくさんの事業者の方にもご協力いただいた。これまでのＥＳＤの取組みによって、人と人とのつながりを大切にしてきたからではないかと感じている。全国からメッセージや支援の品が届いていることも、またつながりであると思っている。

委員　　学校再編は中間見直しが行われ、中学校の再編が具体的に進んでいく中で、小中一貫校については、現在宮原中学校をモデル校として取組みを進めている。ここ数年来、市内では各中学校単位で小学校と中学校との連携を深めてきており、実際に小中一貫校が始まる前に少しずつ準備を進めてきている。市内全校が小中一貫校になるのは大牟田の特色になっていくと思うので応援をお願いしたい。

大牟田版コミュニティ・スクールは、吉野小学校をモデル校として取組みが始まっている。大牟田市はＥＳＤを通して、地域の応援を受けて、「地域とともにある学校」になってきており、信頼関係を重要視するコミュニティ・スクールの地盤はできていると思う。ただ、学校と地域をつなぐ、また地域と地域をまとめていくには、要になる人が必要になるので、取組みを支援し推進する推進員を地域に一人配置していただくようお願いする。

また、連携を力にして子どもたちのために学校教育を充実させていくことが一番の目的であり、そのために小中一貫校やコミュニティ・スクールを学校・地域・保護者が一丸となって取り組めるような形になっていければいい

なと思うが、そのためには、推進員の配置と先生方への研修も必要と思うので、支援をお願いしたい。

市長　　委員が言われるように、連携を図ること自体が目的ではなく、学校が地域の中核の拠点としてあって、子どもたちを地域全体で育てていく、それが目的であると思っている。避難所としても学校を使うが、日頃の地域とのつながりがあってこそ安心して学校に避難することができる。地域の中にある学校、学校と地域が連携していくのは大切なことだと思っており、その体制づくりは、学校ごとのやり方があると思うので、教育委員会の意見を聞きながら検討したい。

また、これまでも小学校と中学校の連携は図ってこられたが、小中一貫教育を進めるということになれば、カリキュラムそのものも小中学校の先生が一緒になって考えるなどいろいろな部分が出てくることになる。モデル校を基に教育委員会が検討していかれるので、いろいろと後押しをしていきたい。

教育長　　小中一貫校については、宮原中学校の次のモデル中学校を宅峰中学校とし、順次広げていきたいと考えている。その後、令和９年に中学校の再編が完了するので、そこでまたモデルを作りたい。同じ大牟田でも中学校区ごとに地域の実態は異なるので、それぞれの学校にふさわしい一貫教育を進めていきたい。カリキュラムを９年間つなげていくことがなにより大事。成果と課題を次の学校に生かしていきたいと考えている。

[自由討議]

委員　　10 年前にＥＳＤの話を初めて聞いたときの高揚感を今でも覚えているし、10 年後の大牟田がここまでになっているとは想像できなかった。今後はさらに国内だけではなくて世界ともつながる事になると思うので、子どもたちが羽ばたいていく、世界で活躍するときの支援をお願いしたい。

大牟田で学ぶことによってこんな機会があるんだという市の魅力発信にもなると思う。

市長　　おっしゃる通りで、子どもたちには限りない可能性があり、ＥＳＤにより子どもたちは、国際的な意識を持つことになる。大牟田の子どもたちが世界で活躍し故郷に貢献するのが目指すべき姿ではないかなと考えている。様々な考え方や視点を身に付けて、たくましく育っていくような、大牟田市のＥＳＤを実現したい。それについて私ができることは後押しをさせていただきたい。

委員　　市の方針の一つに「子育て世代に魅力的なまちづくり」を明記していただいて大変うれしく思う。ＥＳＤの取組みが発展し「ＥＳＤのまち おおむた」と言っていただいている。これからも、シティプロモーションがどんどんまわっていったらいいなと思う。

文化会館での子どもたちのユネスコスクールの発表会には、市長に毎回おいでいただいている。今年は、コロナの影響もあって、難しいとは思うが、来年度は、ぜひ市長の出前授業をしていただきたい。学校で、子どもたちがどんなに目を輝かせて授業を聞いているのかをぜひ見ていただきたい、また、教壇に立っていただいて、子どもたちの取組みや教室を見ていただけたら嬉しいと思っているので、ぜひ、来ていただけたらと思う。

市長　　コロナの影響もあり、できていないので、来年度はぜひ伺いたいと思う。子どもたちが興味を持てるような授業を目指したい、との気持ちはずっと持っている。復興していく中で、子どもたちに元気になってもらう、大牟田のことを知ってもらうということも、私の大事な役割であると思っている。

以上（14:55）終了